

やんま

小川未明

青空文庫

しょう 正ちゃんは、やんまを捕りました。そして、やんまの羽についた、もちを取っていると、ぶるつとやんまは、羽を鳴らして、手から逃げてしまいました。

「あつ。」と、いつて、その逃げた方を見送ると、よく飛べないとみえて、歩いてゆくおばあさんの背中にとまったのです。

しょう 正ちゃんは、胸がどきどきしました。どうしたら、うまく捕らえることができるだろうと思つたからです。

しょう 正ちゃんは、気づかれないように、おばあさんの後を追いかけました。いくらおばあさんでも、動いていると、知られぬように、うまく捕らえられるものでありません。正ちゃんは、ため息をつきました。しかし、勇気を出して、おばあさんのうしろへいつて、手を伸ばしました。

した 下を向いて、おばあさんは、なにか考えながら歩いていると、だれか、たもとにさわつたような気がしたので、うしろを振り向くと、どこかのかわいらしい子が、後からついてきたのです。

「へへへへ、人違いでございますよ。」と、おばあさんは、笑つて、そのままゆきかけ

たのでした。

「だめだなあ、あんなところに、うまくとまっっているんだもの。」と、正しょうちゃんはうらめししそうに、やんまを見みつけていましたが、もう一度捕とらえられるものか、やってみようと、また足音あしおとをたてぬようにして、おばあさんの後あとを追おったのであります。

おばあさんは、また、だれかたもとのあたりにならなかったので、はつとして振り向むいてみると、先刻さつきの子供こどもが、しつこく自分の後あとを追おってきたのでした。

これは、人違ひとちがいでないと思おもいました。そして、顔かおに似合にあわぬ、なんという、いやな子こだろうと思おもいましたから、おばあさんは、怖おそろしい目めつきをして、にらんだのでした。子こ供どもは、おばあさんにしかられると、そのままあちらへ駈かけ出だして行ってしまったのであります。

おばあさんは、お家うちへ帰かえりました。家うちの人ひとたちが、

「おばあさん、お帰かえんなさい。」と、いつて、出迎でむかえました。それから、「お疲つかれでしょう。」と、いつて、羽織はおりをぬがしてあげにかかると、やんまが、背せなか中なかにとまっていたので、

「まあ、おばあさん、こんな大おおきなやんまが、お背せなか中なかにとまっていたよ」と、いつて、

捕らえてみせました。このとき、おばあさんは、

「やんまが？」と、いつて、はじめて、きつき、男の子が、自分の後を追ってきたわけがわかつたのでした。

「ああ、それなら、あんな顔をして、にらむのでなかった。」と、おばあさんは、思いました。

けれども、お彼岸のおまいりにいつた帰りなので、やんまを助けてやったと思うと、いいことをしたとも考えたのでした。

「どれ、どれ、私が、木の枝にとまらせてやりましょう。」と、いつて、おばあさんは、やんまを庭の縁側に近い、南天の木にとまらせておきました。

「もう、逃げていったらう。」と、晩方、おばあさんが、縁側へ出てみると、そこには、やんまの羽だけが散らばっていました。小ねこのたまが食べたのです。おばあさんは、これを見ると、驚いて、たいそう立腹しました。

「今夜は、家へ入れない。」と、いつて、たまをしかって、外へ出してしまいました。小ねこは、ニャアニャアと鳴いていたが、そのうち、どこへかいつてしまいました。

「かわいそうに、どこへいつたでしょう。」と、家の人たちが、いつていました。

「いえ、こらしめてやらなければ。」と、おばあさんは、いつまでも立腹りつぷくしていました。そのとき、そこへお隣となりの光子みつこさんが、たまを抱だいて入はいってきました。

「おばあさん、たまが、うちのお台だいどころ所へきて鳴ないていましたから、つれてきたのよ。」と、いいました。

おばあさんは、たまが、やんまを食たべたからしかつたと、お話はなしをしました。すると、光子みつこさんは、おばあさんの顔かおを見みて、

「だって、たまは、やんまを食たべて、わるいということを知しらないのですもの。」と、いいました。

この子供こどもの、やさしい言葉ことばは、おばあさんに、さつき、自分じぶんもそれと知しらないばかりに、どこかの、かわいらしい男おとこの子をにらんで、わるいことをしたことを思おもい出ださせました。

「この年としになっても、おばあさんは、ばかだね。光子みつこちゃん、こちらへおいで。」と、いつて、おばあさんは、光子みつこさんの頭あたまをなでてやりながら、自分じぶんにも、こんなような女おんなの子か、先刻さつきの、男おとこの子のような、かわいらしい孫まじこがあつたら、どんなに、楽たのしかろうと思おもいました。

たまは、いつのまにかおばあさんのひざの上うえにのつて、まるくなっていました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 11」講談社

1977（昭和52）年9月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「ドラネコと烏」岡村商店

1936（昭和11）年12月

初出：「教育・国語教育 5巻10号」

1935（昭和10）年10月

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年6月10日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

やんま

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>